

研究テーマ

語学力を生かしたホスピタリティマネジメントとコミュニケーション
～北海道の観光関連産業で活躍するグローバル・リーダーの育成～

石狩管内 北海道札幌東商業高等学校

1 研究の目的									
<p>(1) 地域の魅力を発見し、有益な情報を発信する能力を育成する。</p> <p>(2) 地域産業界と連携して、主体的に問題解決を図ることのできる思考力と実践力を育成する。</p> <p>(3) 地域の発展を担う人材を育成する。</p>									
2 研究の概要									
<p>(1) 先進的な実践研究</p> <p>ア インターンシップ、デュアルシステムの実施</p> <p>イ 高大連携、スピーチコンテストへの参加</p> <p>ウ 販売実習、学校独自検定の実施</p> <p>エ 学校設定科目の教材開発</p> <p>オ 講演会の実施</p> <p>カ 国際経済科生徒の実態調査</p> <p>(2) 職業能力に関する調査</p> <p>本校を卒業し就職した者を対象に、本校で学んだ専門的な知識や技能を仕事にどのように活用しているか等についてアンケート調査を行う。</p>									
3 研究の内容と評価									
【評価欄 A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった】									
第 一 年 次	インターンシップ、デュアルシステムの実施				A	B	C	D	
	○ インターンシップ								
	9月 インターンシップの実施（事業所数69社）						○		
	・国際経済科生徒限定の事業を開拓し、外国人観光客を対象とした接客、販売体験を実施								
	3月 学習成果発表会の実施						○		
	・国際経済1、2年生を対象に、代表生徒がインターシップの学習成果について発表								
	○ デュアルシステム								
	11月 デュアルシステム提携候補企業担当者と情報交換							○	
	高大連携、スピーチコンテストへの参加				A	B	C	D	
	○ 高大連携								
11月 高大連携について大学担当者と情報交換							○		
○ スピーチコンテストへの参加									
10月 平成27年度北海道高等学校産業教育意見・体験発表会に出場（2名出場）						○			
10月 平成27年度全商英語スピーチコンテスト北海道予選会に出場（4名出場）						○			
・レシテーションの部 佳良賞受賞									
・スピーチの部 第3位入賞									
11月 第17回北海道韓国語弁論大会に出場（1名出場）							○		

- 本事業計画書提出時、学習成果発表会を盛り込む必要がある。

ウ 販売実習、学習成果発表会（学校独自検定）の実施

- 現時点でオータムフェストへの参加予定のみであって、他の販売実習の実施は未定となっている。
- 計画時予定していた学校独自の検定の実施については、計画書提出後に学科内の学習成果発表会を行うという内容に変更した。これは、本校独自の検定試験を考案したとしても、客観性や信頼性、妥当性等の面で、対外的に活用することが難しいと判断したことによる。平素の学習成果を学科内で共有し、今後の学習活動に生かすことをねらいの一つとして位置付け、学習成果発表会を実施する。

エ 学校設定科目の教材開発

- 授業で使用しているビジネス会話のワークシートは、適宜開発できている。
- 生徒以外にも活用できる汎用性の高い教材となるよう研究を進める必要がある。
- 中韓ビジネスⅠ・Ⅱ（韓国語）のスピーチコンテストについては、限られた時間内での準備となったことから、より充実した活動となるよう、準備の仕方について工夫するとともに、十分な準備時間を確保する必要がある。

オ 講演会の実施

- 外国人講師による講演では、平素の授業の中で、本校の講師以外と外国語でコミュニケーションをとる機会が少ないことから、一部予定を変更して講演会と交流会をセットにして実施することができた。
- より充実した取組となるよう、実施後の反省を生かし修正する必要がある。
- 留学生の確保が困難だったため、実施時期を検討する必要がある。
- 講師及び日程の調整がつかず、観光に関する講演会を実施することができなかったことから、早めに準備に取り組む必要がある。

カ 国際経済科生徒の実態調査

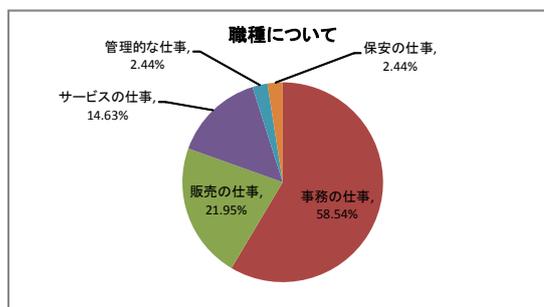
- 本実態調査を実施することで、今後の国際経済科の未来像を考える基礎データを得ることができた。国際経済科生徒の実態の把握や教育課程の検証等も踏まえ、得られたデータを基に授業改善及び教育課程編成に生かしていく。

(2) 職業能力に関する調査（Q1～Q22）

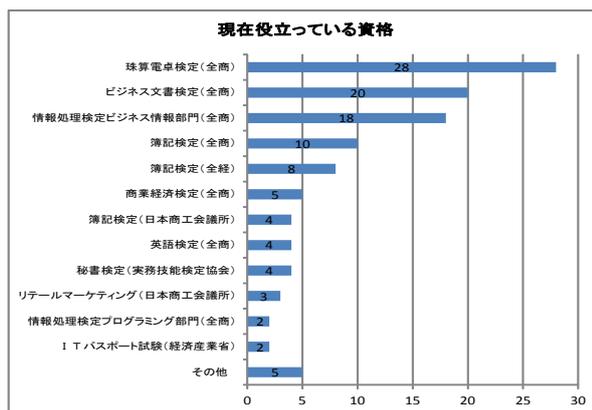
アンケート回収率37.2%（42/113名 平成28年2月20日現在）

- Q4「勤務している（勤務していた）企業での職種（仕事内容）をお答えください。（○は1つ）」では、回答者のうち、約59%が事務職に従事していることがわかる。

職種	従事者数
事務の仕事	24
販売の仕事	9
サービスの仕事	6
管理的な仕事	1
保安の仕事	1

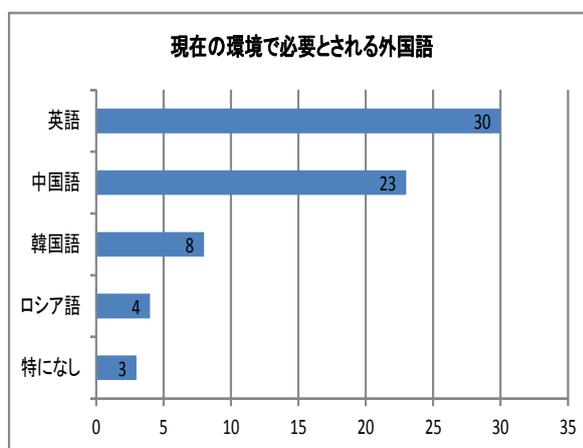


- Q19「本校で取得した資格のうち、現在役立っているものはありますか。あてはまるものを全てお答え下さい。【複数回答可】」では、上位を種目別に見ると、「珠算電卓検定」「簿記検定」「ビジネス文書検定」「情報処理検定」となっている。回答者の約59%が事務職に従事していることもあり、事務職に必要な実践的なスキルに関わる資格が役立っていると考えられる。



なお、これらの資格については、必修科目の学習内容と関連が深く、本校で基礎的・基本的な科目と位置付けているものである。

- Q21「現在の環境で必要とされている（必要と感じている）外国語はありますか。当てはまるものを全てお答え下さい。【複数回答可】」では、「英語」が最も多く、次いで「中国語」、「韓国語」となっている。グローバル化が進む中で、いずれの職種においても外国語の能力が必要になってきていると考えられる。



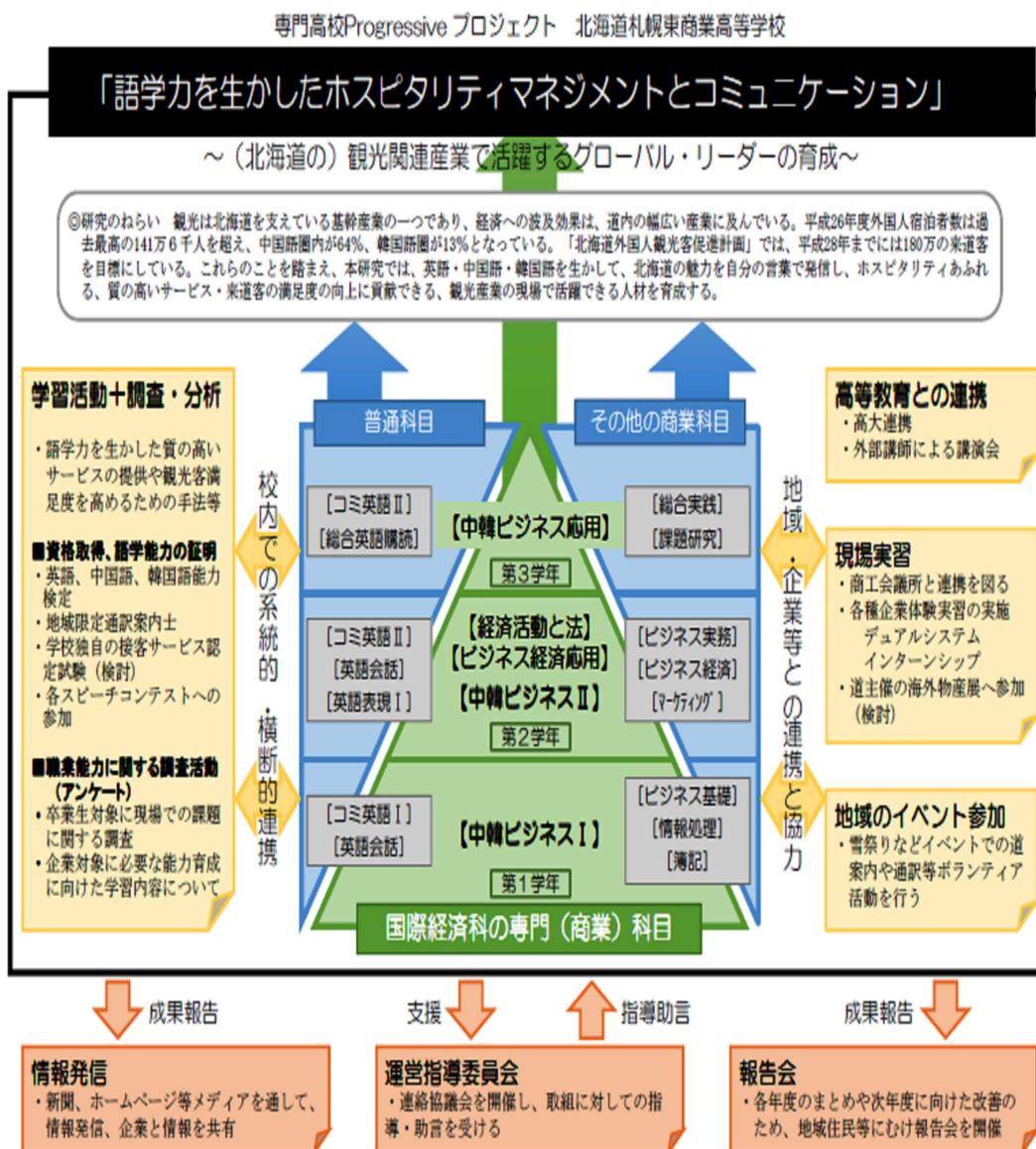
5 課題解決の方策

- (1) 高大連携、スピーチコンテストへの参加
 - ・次年度は年度当初から参加することとし、実施の成果を踏まえ実施時期、方法についても検討する必要がある。
- (2) 販売実習、学習成果発表会
 - ・販売実習時の参加対象者や具体的な活動内容等の詳細について、今後検討が必要である。
 - ・学習成果発表については、今後3年間継続した取組を行い、本発表会の成果や反省を今後の教育活動に生かす必要がある。
- (3) 学校設定科目の教材開発
 - ・ビジネスの現場で使用可能な教材を意識しながら、今後継続して開発する必要がある。
 - ・準備時間については、長期休業の利用や授業時数の確保など工夫が必要である。また、教材の内容についても、学習段階を踏まえながら1、2年生で差別化を図る必要がある。
- (4) 講演会の実施
 - ・次年度以降は実施時期、内容を再検討するとともに、実施後の反省を生かし、より一層学習効果の高いものとなるよう修正する必要がある。
 - ・観光に関する講演会については、早い段階で講師及び日程の調整を行う必要がある。

6 運営指導委員会の開催内容

- 第1回運営指導委員会（平成28年3月22日）
 - ・ 専門高校プロジェクト推進事業・運営指導委員会の説明
 - ・ 委員長・副委員長の選出
 - ・ 研究計画書の説明及び報告
 - ・ 今年度の事業説明①国際交流員・留学生との交流授業
 - ・ 今年度の事業説明②国際経済科成果発表会
 - ・ 今年度の事業説明③国際経済科生徒の実態調査
 - ・ 今年度の事業説明④職業能力に関する調査
 - ・ 運営指導委員より指導助言

7 研究イメージ図



8 参 考 資 料

(1) 先進的な実践研究

ア インターシップ（平成27年9月8～10日）



2年生を対象に行われたインターシップでは、小樽洋菓子舗ルタオ本店にて国際経済科の生徒が試食の提供や店内での接客等、3日間のインターンシップを通して多くの外国人観光客と接する機会を得ることができた。授業で学習した、英語・中国語・韓国語を生かすことのできる実践的な活動は生徒にとって大変有意義な体験となった。

イ 平成27年度北海道高等学校産業教育意見・体験発表会（平成27年10月7日）



国際経済科2年生2名が参加し、平素の学習活動の成果と今後の進路や夢、インターンシップの体験談等について発表した。発表時には、英語・中国語・韓国語を交えながら発表する場面もあり、中でもインターンシップでの韓国観光客に対する接客場面を韓国語で再現した際には、聴衆を圧倒する場面も見られた。生徒は、自らの思いや考えを言葉にし伝える活動を通して、さらなる学習意欲がわくとともに、大きな自信をつかむことができた。

ウ 第17回北海道韓国語弁論大会（平成27年11月14日）



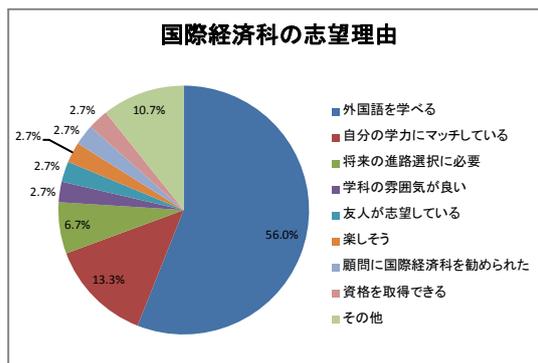
国際経済科2年生1名が参加した。発表は韓国語で行う。「훗카이도에서 세계로」【北海道（D o）から世界へ】というテーマで発表した。出場者は社会人・大学生・専門学校生・高校生と幅広く、発表テーマも韓国の文化や歴史、日韓関係や自身の目標や夢等、多岐に渡っていた。特に他校生徒の発表は大きな刺激となり、韓国語の学習意欲の向上に繋がっている。

(2) 職業能力に関する調査

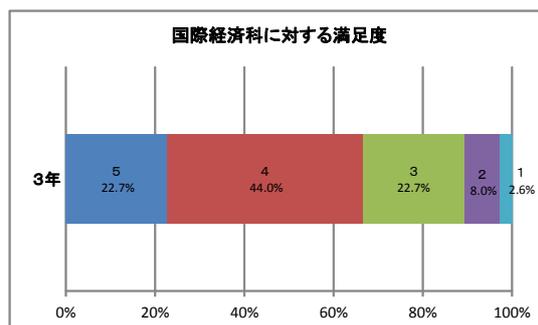
- ・国際経済科生徒の実態調査について
平成28年1月18日（月）3年生
平成28年2月22日（月）2年生
平成28年2月17日（水）1年生
コンピュータ室にてインターネット上で回答した。

下記の結果は本校の国際経済科3年生の回答をまとめたものである。

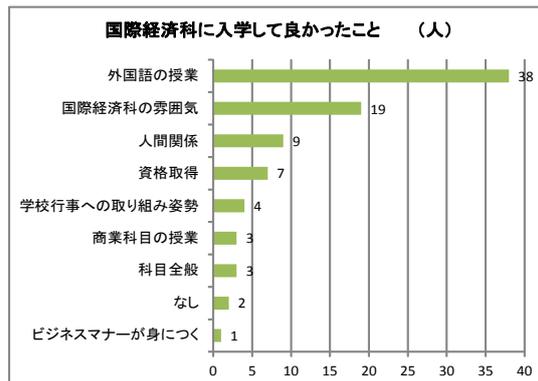
国際経済科志望理由に関する質問で最も多かった回答は、『外国語を学べる』(56.0%)から、次いで、『自分の学力にマッチしている』(13.3%)、『その他』(10.7%)、『将来の進路選択に必要』(6.7%)という順になっている。この結果から、国際経済科に入学した半数以上の生徒が外国語の学習に強い興味、関心を寄せていたことを読み取ることができる。



国際経済科に対する満足度（5が満足度が最も高く、1が最も低い）に関する質問では、満足度（5～4）は、66.7%、満足度（3）は22.7%、満足度（2～1）は、10.6%であった。今後、実態調査の結果を分析し、満足度の改善に向けた具体的な取り組みを模索していきたい。



国際経済科に入学して良かったことに関する質問【複数回答可=延べ回答者数86人】では、『外国語の授業』が38人、『国際経済科の雰囲気』が19人、『人間関係』が9人となっている。国際経済科の志望理由の一位である、『外国語を学べる』という生徒のニーズにマッチした授業が実施されていることを感じ取ることのできる結果である。今後外国語の授業の充実に向けた具体的な取り組みを模索していきたい。



今回の実態調査から本校の国際経済科の生徒は学科に対する満足度が高いことがわかった。その理由の一つとしては、外国語に対する関心の高い生徒が多く入学し、外国語の授業に対する満足度、特に中国語・韓国語を学ぶことができたことにあると考えられる。今後、他学年の調査結果も参考にしながら、国際経済科における外国語教育、特に中国語・韓国語についてさらに検証・検討をしていきたい。

